

令和4(2022)年度 運営に関する計画

【最終反省用】

学校教育目標

人間尊重の教育を基盤とし、個性を生かし、豊かな人間性を育て、たくましく生きる力をはぐくむ教育を推進する。

学力の向上

子どもの状況に応じた学力向上に取り組む

道徳心・社会性の育成

豊かな人間性や生きる力を育む

健康・体力の保持増進

健康な生活習慣の確立、食育の推進

特別支援教育の充実

生徒の自立や社会参加に向けての支援

大阪市立墨江丘中学校

令和5年3月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 全国、府、市が主催となる学力テストにおいて、ここ数年大阪市平均レベルを上下する程度にとどまっている。当然個々の課題もあるが、全体的にはここ5年間国語分野における「文書読解力の分野」が低迷している。そのことは、他教科にも少なからず影響していると言わざるを得ない。また、基礎学力が定着していない層も増えつつあり、一定の実力のある層との2極化も進みつつある。ある程度実力のある層に対しても、課題である読解力アップや更なる学力向上を目指し様々な取り組みを展開する。
- その一つとして、ICT機材を活用した、授業の在り方を通して、質の改善と図りわかりやすい授業展開を構築し、民間テストの運用さらには校内テストにおける分析ソフトを導入し、様々な角度から生徒個々の弱点を明確にしながらその補習に努める。
- 普段の生活では見受けられないが、昨年の校内アンケートから規範意識は高いものの、自己肯定感に低い数値が表れる。SDGsの取り組みや人権教育を通して生命の尊さや、自他の命を尊重させる心を育て、また、社会の一員としてその文化に触れ、地域活動に参加することにより地域の方々のつながりを深めさせ、次世代の街づくり、更には地域防災へとつなげていく。
- また、不登校のみならず、何らかの要因により学校へ登校しにくい生徒の個別学習環境(居場所確保)の整備にも着手しながら、既成概念にとらわれない学び方についても模索する。

中期目標

大阪市教育振興基本計画に準ずる項目について、令和7年度末における本市の数値目標を上回る。

【安心・安全な教育の推進】

- ・校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。
- ・校内調査において、不登校生徒の在籍比率を2.30%以下にする。
- ・校内調査において、不登校生徒の改善の割合を65%以上とする。

【未来を切り開く学力・体力の向上】

- ・校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を35%以上にする
- ・中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団においていずれの学年も1.00以上とする。
- ・大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を56%以上にする。
- ・校内調査において「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を53.6%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・ICTを活用した授業において、全教員でのべ10000時間以上とする。
- ・年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を100%とする。
- ・**墨江丘タイム**を年間6回以上、ノー残業dayを年間10回以上とする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安心・安全な教育の推進】

全市共通目標

- ・校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を70%以上にする。
- ・校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より1.0%減少させる。
- ・校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を1.0%以上増加させる。

学校園の年度目標

- ・校内調査における、「学校のルールを守って生活している」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える肯定的回筈の割合を90%以上にする。
- ・以下、校内調査において肯定回答を80%以上とする。
 - 「クラス・学校は楽しい」の項目について
 - 「普段から、あいさつを積極的にしている」の項目について
 - 「清掃活動などの班活動に協力し、校内美化に努めている」の項目について
 - 「人を傷つけるような言葉や、行動に対して腹が立つ」の項目について
 - 「人それぞれの〈ちがい〉を大切にすることを学んでいる」の項目について

【未来を切り開く学力・体力の向上】

全市共通目標

- ・校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を25%以上にする。
- ・中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対応比を、同一母集団においていずれの学年も前年度より0.4ポイント向上させる。
- ・大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を48%以上にする。
- ・校内調査において「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を45.0%以上にする。

学校園の年度目標

- ・校内調査において「学習している内容がわかる、理解しやすい授業だ」の項目について、肯定的回筈を80%以上とする。
- ・全国体力・運動能力、運動習慣調査において、男女ともに合計得点において全国、市平均を上回る。
- ・以下、校内調査において肯定回答を70%以上とする。
 - 「宿題を含め、予習復習など家庭、また学校外での学習をよく行っている」の項目について
 - 「先生は授業外で補充学習をしてくれる」の項目について
 - 「現在も、これからも誰かの役に立ちたいと思っている」の項目について
 - 「自分にもいいところがある」の項目について

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標および学校園の年度目標

- ・ICTを活用した授業において、全教員で昨年のべ時間数(R3:7845 R2:6448 R元:4323)を上回る。
- ・年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を80%とする。
- ・**墨江丘タイム**を年間5回、ノー残業dayを年間8回以上とする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【安心・安全な教育の推進】

- ・校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を70%以上にする。 = 85.0% ↑
- ・校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より1.0%減少させる。 = 7.4% ↓
- ・校内調査において、前年度不登校生徒の割合を1.0%以上減少させる。 = 66.6% ↑
- ・校内調査における、「学校のルールを守って生活している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える肯定的回答の割合を90%以上にする。 = 97.9% ↑
- ・以下、校内調査において肯定回答を80%以上とする。
 - 「クラス・学校は楽しい」の項目について = 85.3% ○
 - 「普段から、あいさつを積極的にしている」の項目について = 89.2% ○
 - 「清掃活動などの班活動に協力し、校内美化に努めている」の項目について = 92.4% ○
 - 「人を傷つけるような言葉や、行動に対して腹が立つ」の項目について = 89.0% ○
 - 「人それぞれの〈ちがい〉を大切にすることを学んでいる」の項目について = 93.6% ○

【未来を切り開く学力・体力の向上】

- ・校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を25%以上にする。 = 32.3% ○
- ・中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団においていずれの学年も前年度より0.4ポイント向上させる。
- ・大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を48%以上にする。 3年生148人受検者中140名がA1以上 大阪市平均55.8% = 60.1% ○
- ・校内調査において「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を45.0%以上にする。
男子57.9% 女子41.2% ○
- ・校内調査において「学習している内容がわかる、理解しやすい授業だ」の項目について、肯定的回答を80%以上とする。 = 90.8% ○
- ・全国体力・運動能力、運動習慣調査において、男女ともに合計得点において全国、市平均を上回る。
男子大阪市49.8点 本校53.5点 女子大阪市49.6点 本校51.5点 ○
- ・以下、校内調査において肯定回答を70%以上とする。
 - 「宿題を含め、予習復習など家庭、また学校外での学習をよく行っている」の項目について = 83.9% ○
 - 「先生は授業外で補充学習をしてくれる」の項目について = 78.6% ○
 - 「現在も、これからも誰かの役に立ちたいと思っている」の項目について = 94.9% ○
 - 「自分にもいいところがある」の項目について = 74.7% ○

【学びを支える教育環境の充実】

- ・ICTを活用した授業において、全教員で昨年のべ時間数(R3:7845 R2:6448 R元:4323)を上回る。
1月末現在R4 6837
- ・年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を80%とする。
- ・墨江丘タイムを年間5回、ノー残業dayを年間8回以上とする。
墨江丘タイム7回・ノー残業Day10回実施 ○

大阪市立墨江丘中学校 令和4(2022)年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった	B : 目標どおりに達成した D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
---	--

年度目標	達成状況
<p>【安心・安全な教育の推進】</p> <p>全市共通目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を70%以上にする。 校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より1.0%減少させる。 校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を1.0%以上増加させる。 <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内調査における、「学校のルールを守って生活している」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える肯定的回答の割合を90%以上にする。 以下、校内調査において肯定回答を80%以上とする。 <ul style="list-style-type: none"> ○「クラス・学校は楽しい」の項目について ○「普段から、あいさつを積極的にしている」の項目について ○「清掃活動などの班活動に協力し、校内美化に努めている」の項目について ○「人を傷つけるような言葉や、行動に対して腹が立つ」の項目について ○「人それぞれの〈ちがい〉を大切にすることを学んでいる」の項目について 	B

※P.2より転載する

年度目標達成に向けた取り組み内容・指標【安心・安全な教育の推進】	達成状況
取組内容①（1. 安全・安心な教育環境の実現） 朝の登校指導(遅刻〇の日等) や服装点検等々、学校生活全般にわたっての学校ルール指導強化期間を構築しその徹底を図る。 <i>(きまりを守る：生活指導部)</i>	B
指標 生活指導強調週間を年間3回以上設定する。	
取組内容②（1. 安全・安心な教育環境の実現） 生徒間で起こる「いじめ」や「トラブル」について、確実な情報収集とともに早期解決に向け組織的に対応する。 <i>(いじめ・暴力行為防止・不登校対策：生活指導部)</i>	B
指標 学期に1回全生徒にアンケートを実施し、それに基づいた教育相談を実施解決にあたる。	
取組内容③（2. 豊かな心の育成） 墨江・清水丘連合会に、生徒の防災リーダーを認定し、さらに、「命」をテーマに、防災の取り組みを各学年で構築していく <i>(各学年)</i>	
指標 1年：防災リーダーを中心に各町会の一斉清掃の実施 2年：区役所・消防署・地域共同の防災訓練の構築 3年：救急救命講習初級を実施し、3年全員に資格を獲得させる	B

年度目標の達成状況の結果と分析

①(生活指導部)

生活指導週間を実施し、服装点検、生活リズムの確立を目的とし実施した。また普段の登校指導でも、生活委員会が中心となって、遅刻者・遅刻予備群を数値化し、学級毎にまとめるなど普段から意識させる取り組みを行った。

②(生活指導部)

いじめや暴力行為等の根絶をめざすために、教職員全員と連携を図り、指導する必要がある。また、いじめの手段が常に変化していくため、時代に応じた対策を模索するとともに情報管理、情報共有、提供してもらえる地域との連携を深めていきたいと思う。

③(教職員組織改革)

1年

防災リーダーを中心とした、地域清掃を行うことができた。

2年

1月に区役所・消防署・地域共同の防災訓練を実施することができた。

3年

3学期に救急救命講習初級を実施し、3年全員に資格を獲得させることができた。

次年度への改善点

①(生活指導部)

20分の予冷遅刻の数は前年度と比べて、大幅に減少した。ただ、本鈴後の遅刻の数が増加している。担任と生徒一人ひとりの現状の変化、状況を丁寧に話し合い遅刻の数を減少させていきたいと思う。

②(生活指導部)

いじめや暴力行為等の根絶をめざすために、教職員全員と連携を図り、指導する必要がある。また、いじめの手段が常に変化していくため、時代に応じた対策を模索するとともに情報管理、情報共有、提供してもらえる地域との連携を深めていきたいと思う。

③(生活指導部)

1年

避難訓練を行うときなどに、防災リーダーとしての自覚を持たせて行動させる。

2年

防災リーダーは昨年度より継続して、決まっている。防災学習を通して、「命」の大切さ、防災の心得を学習していく。

3年

保健の授業や避難訓練を通して、「命」をテーマに学習していく。防災の学習を通じて、地域で活躍できる人を育む。

大阪市立墨江丘中学校 令和4(2022)年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった	B : 目標どおりに達成した D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
---	--

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を25%以上にする。 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団においていずれの学年も前年度より0.4ポイント向上させる。 大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を48%以上にする。 校内調査において「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を45.0%以上にする。 <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内調査において「学習している内容がわかる、理解しやすい授業だ」の項目について、肯定的回答を80%以上とする。 全国体力・運動能力、運動習慣調査において、男女ともに合計得点において全国、市平均を上回る。 以下、校内調査において肯定回答を70%以上とする。 <ul style="list-style-type: none"> ○「宿題を含め、予習復習など家庭、また学校外での学習をよく行っている」の項目について ○「先生は授業外で補充学習をしてくれる」の項目について ○「現在も、これからも誰かの役に立ちたいと思っている」の項目について ○「自分にもいいところがある」の項目について 	B
※P.2より転載する	

年度目標達成に向けた取り組み内容・指標【未来を切り拓く学力・体力の向上】	達成状況
<p>取組内容①(4 誰一人取り残さない学力の向上)</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内定期テストにおいて、生徒の受験への積極的な取り組み姿勢を構築するため、テスト前学習補習時間を設定し、学習強化週間とする。 よりわかりやすい授業づくりのための研究授業、研究協議・教員研修をおこなう <p style="text-align: right;"><i>(学力向上・教員研修 : 教務部)</i></p>	
<p>指標・定期テスト前学習補習時間を年間10時間以上設定し、全教員で指導にあたる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間1回以上の研究授業・相互授業参観・教員の研修を行い、授業を通じて、主体的・対話的深い学びをめざした授業づくりに取り組む。 	B

年度目標達成に向けた取り組み内容・指標【未来を切り拓く学力・体力の向上】	達成状況
取組内容② (4 誰一人取り残さない学力の向上) 定期的に単元の小テストを実施する。	(国語) B
指標 校内国語科アンケートの「国語の授業はわかりやすいですか」の項目について 肯定的回答を70パーセント以上にする。	
取組内容③ (4 誰一人取り残さない学力の向上) 毎授業において、計算問題など基本的な問題に関する小テストを実施する。	(数学) B
指標 中学生チャレンジテストにおいて、「数と式」分野で大阪府の平均を上回る。	
取組内容④ (4 誰一人取り残さない学力の向上) 家庭学習を充実させることによって、基礎学力を定着させる。	(英語) B
指標 校内英語科アンケートの「英語の授業はわかりやすいですか」の項目について 肯定的回答を70パーセント以上にする。	
取組内容⑤ (5 健やかな体の育成) 本年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、平均値を上回る。	(保健体育) B
指標 すべての種目において、大阪市平均を上回る。	
年度目標の達成状況の結果と分析	
①(教務部)	2学期期末テストまで、全てのテストに学習強化週間を設定し、14.5時間の補充学習に取り組むことができた。また、7月に3年生、9月に2年生、11月に1年生担当教員の研究授業・相互授業参観を実施し、主体的・対話的深い学びを目指した授業づくりに取り組んだ。
②(国語科)	2学期期末テストまで、各単元の確認テストや漢字の確認テストを実施した。
	校内国語科アンケートの「国語の授業はわかりやすいですか」の項目について 肯定的回答を70パーセント以上にする。 → (結果) 95%
③(数学科)	2学期期末テストまで、毎授業、計算問題など基本的な問題に関する小テストを実施した。 「数と式」分野で大阪府の平均を上回る目標に対して、 3年生 (府平均) (19.7%) →本校 (19.2%) 2年生 (府平均) (17.3%) →本校 (18.7%) 1年生 (府平均) (27.5%) →本校 (28.1%)
④(英語科)	2学期中間テストまで、単語テストと文法テストを繰り返し実施した。 「英語はわかりやすい」目標70%に対して→本校結果90%
⑤(保健体育科)	対象学年の全国体力テストの結果、全国平均と比較すると、 男子は握力、女子は、握力、長座体前屈、持久走が平均値に到達できなかった。 また大阪市平均と比較すると、 男子では握力、女子は握力、長座体前屈が平均値に到達できなかった。 しかし、男女ともに総合値は平均をクリアすることができていた。

次年度への改善点

①(教務部)

1年間を通じて学習強化週間を設定し、生徒が計画的に学習を行えるよう働きかけを続けた。
次年度は研究授業の実施時期、方法を再検討していきたい。

②(国語科)

次年度も引き続き各単元の確認テストや漢字の確認テストを実施し、1・2年生はチャレンジテストで、3年生は実力テストの平均点を前回より上げられるよう取り組む。

③(数学科)

今後も毎授業で小テストに取り組み、「数と式」分野に関して、3年生は実力テストで前回よりも正答率を上げ、1・2年生はチャレンジテストで大阪府の平均を超えるようにする。

④(英語科)

単語テストを今後も続け、自主学習ノートを毎度提出させるようする。
チャレンジテストでは、大阪府平均を超えるようする。

⑤(保健体育科)

各学年ともに、日々の授業で課題克服に向けて継続して取り組む。

大阪市立墨江丘中学校 令和4(2022)年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった	B : 目標どおりに達成した D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
---	--

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標および学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT を活用した授業において、全教員で昨年のべ時間数(R3:7845 R2:6448 R元:4323)を上回る。 年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 80%とする。 墨江丘タイム (昼迄の日) を年間 5 回、ノ一残業 Day を年間 8 回以上とする。 <p>※P.2より転載する</p>	B

年度目標達成に向けた取り組み内容・指標 【学びを支える教育環境の充実】	達成状況
取組内容① (6 教育DXの推進) 大型モニター、プロジェクター、タブレット等を活用した、わかりやすい授業の在り方研究、また活用の推進を継続する。 指標 ICT 機材を活用した授業時間を、15+5クラスにて延べ前年度以上を目指す。	B
年度目標の達成状況の結果と分析	
<p>① (教務部) 1月末段階の授業での ICT 活用授業数が 6787 時間であり、昨年度の同時期と同程度であった。 Teams の機能を利用した課題の提示や生徒のタブレットを活用した授業など、教員の授業に役立てている。 また、1, 2 年生がインフルエンザ流行のため自宅待機の際も、Teams の会議機能を利用し、学年全員にオンライン授業を実施することができた。 この 1 年間で、授業午前 4 時間の日を 7 回設定、ノ一残業デーを 10 回実施し、教職員の働き方改革をすすめた。</p>	
次年度への改善点	
<p>①(教務部) 多くの教員が ICT 機器を活用して授業を行うことができるようになり、生徒も調べ学習や発表のツールとして ICT 機器を使えるようになってきた。次年度は、さらに生徒が日常的に文房具のように使うツールとしての活用していきたい。 ただ、ICT 機器を使う中で、マナーやルールも、生徒に考えさせていく必要がある。</p>	

児童生徒等の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査の結果から明らかになった現状

1 令和4年度の調査結果の概要

区分	結果
① 暴力行為の発生件数(件)	1
② いじめの認知件数(件) (学期に1回アンケートより)	5
③ いじめの現在の状況で「解消しているもの」の件数の割合(%)	100%
④ 小・中学校における不登校児童生徒数(人) 30日以上の欠席	39
⑤ 高等学校における長期欠席生徒数(人)	
⑥ 高等学校における中途退学者数(人)	

2 自校の取組の成果と課題

区分	成果と課題
① 暴力行為の状況等	生徒間トラブルによる暴力行為が1件あった。これは1年生の1学期に起こった事案であり、新しい環境で新たな友人と折り合いが合わなかつたことが原因であった。2、3年生においては、暴力行為はなかった。
② いじめの状況等	昨年度と同じく、家庭状況の変化や生活習慣の確立などを把握するため、学期始めにクラス担任が生徒一人との教育相談の時間をつくり、悩みや相談できる環境をつくっている。集会や、学年集会でもいじめに関する指導を定期的に行っている。年間3回のいじめの実態調査をして、現状把握に努めている。 スマートフォン、インターネットの普及でいじめ問題も見えにくくなることが予測される。生徒、保護者、教職員の人間関係作りが大いに大切になってくると考えている。
③小・中学校における不登校の状況等	マネジメントコーディネーター会議、生指部会、職員会議などで不登校生徒の状況を報告している。近年、不登校の実態も変化しつつあり、在宅での学習、サテライトなどの外部学習も増えてきている。 年2回不登校生徒現況報告会を開催し、生徒が不登校になったきっかけや登校できるようになり改善されたケースなど報告しあい、教職員全体で共通理解の場を設けている。 不登校の生徒の家庭的な背景に迫り、生徒の実態を理解して学校だけでは解決できない事案、学校だけに来るという考え方ではなく、社会のありとあらゆる資源である子ども相談センター、SSWなどの関係諸機関を活用して、少しでも子どもたちの成長の場の提供、生徒に応じた指導ができるように連携を進めていきたいと考えている。
④高等学校における長期欠席の状況等	
⑤高等学校における中途退学の状況等	

※ 両表とも、小学校・中学校は①②③の項目、高等学校は①②④⑤の項目、特別支援学校は学校の状況に応じた項目について、それぞれ記入すること